

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	基盤ソフトウェア論1		
英文授業科目名	Foundations of Software Systems 1		
開講年度	2009年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	情報システム学研究科-情報システム基盤学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報システム基盤学専攻		
担当教官名	多田 好克		
居室	IS-632		

公開E-Mail	授業関連Webページ
tada[at]is.uec.ac.jp [at] --> @	http://www.spa.is.uec.ac.jp/tada/k-09/

【講義の狙い，目標】

本講義では、実働している各種ソフトウェアを対象に、その処理系の仕組みやプログラミング技法の解明を行う。対象となるソフトウェアは年度によって変わるが、オペレーティングシステムや言語処理系のような、いわゆるシステムソフトウェアを想定している。システムソフトウェアに使われる各種アルゴリズムや、設計に際しての考え方を理解することにより、基盤ソフトウェアの基礎を身に付けて貰う。

今年度の目標はオペレーティングシステムの各種機能を把握し、その実現法をそれなりに理解して貰うことである。

【内容】

具体的には、オペレーティングシステムの理解に必要な諸概念、

- ・プロセスの実現法
- ・メモリ管理技法
- ・割込み処理法
- ・入出力の仕組みとその制御法
- ・ファイルシステム
- ・オペレーティングシステムの起動と停止

などの項目について概観する。また、実際のオペレーティングシステムのソースコードを覗き見て、その雰囲気味わう。一般的なオペレーティングシステムの講義に比べると、少し実現法に重きを置いたものになる予定である。

なお、講義内容に関する質問は講義時間内に適宜受け付ける。その他の講義に関する事は、まず、メールにて相談すること。

【教科書，参考書】

特になし。（講義中に適宜、指示する。）

電気通信大学 平成21年度シラバス

【予備知識】

特別な予備知識は要求しない。ただし、C言語のプログラムを眺めることになるので、C言語もしくはPascalなどのプログラミング言語の雰囲気分かっている必要はある。プログラミングするわけでは無いので、言語の詳細までを理解している必要はない。

また、コンピュータに関する様々な知識を前提として講義するので、解らない場合にはその場で質問することが重要である。質問の無い場合には解っていると考えて説明はしない。

【演習】

なし。

【成績評価方法及び評価基準】

学期末の試験による。基本的には試験だけの一発勝負。ただし、試験の成績の悪い学生に対しては、出席点を加味する。

【その他】

講義中の私語は他人に迷惑をかけるので禁止（即、退場）。飲食は節度があれば可。